



第 23 回例会

2023. 2. 1

今年度
スローガン
インスパイア

いつもわが身を鼓舞し、仲間の行動を激励し、人に感銘を与える

会員 67 名中	42 名出席	出席率 62.69%
修正 52 名出席	出席率 77.61%	メイクアップ 10 名

WEBSITE!

イマジン
ロータリー

例会場 クーラークリアンテサンパレス 福島市上町 4-30

開催日 毎週水曜日 12時30分～

会長 渡邊 正義

幹事 穴戸 隆司

第 2 回 オープン例会 開催

会長挨拶

渡邊正義 会長



皆様こんにちは、本日は 2 回目のオープン例会という事で 5 名の方の出席を頂いております。寒いところようこそいらっしゃいました、ありがとうございます。ロータリーの福島県における組織としては、福島市をはじめとする 8 分区があり、全部で 63 クラブがあります。我々福島南ロータリークラブは福島クラブの子クラブとして、1971 年 4 月 8 日に認証され、創立 52 年になります。県北地区では福島ロータリークラブの次に会員の多いクラブです。現在 67 名の会員が和気藹々と例会を催しております。皆様も私たちの仲間に加わっていただければ幸いです。

昨年第 1 回目のオープン例会を開催しましたところお一人の方が入会されました、ありがたいことです。この辺で少しロータリーの話を見せて頂きたいと思っております。ロータリーとは何するところなのとよく聞かれますが私にも正直分かりません。奉仕団体であるという事は何とか分かりますが、じゃあ何のために入るのという事もよく聞かれます。第 1 番目は異業種の人々が集い各界の人と交流を図るといのが一番の目的だと思います。例会では 4 つのテストというのを全員で唱和します、真実かどうか、皆に公平か、好意と友情を深めるか、最後にみんなの為になるかどうかの 4 つです。最近になって少しずつ理解できるようになってきました、奥の深い言葉です。これで会長挨拶を終わります。

米山奨学生奨学金授与

米山奨学生 于 秋麗さん



みなさん、こんにちは。于秋麗です。どうぞよろしくお願いたします。奨学金のご支援をいただきありがとうございます。私は、今週月曜日に卒論を無事に提出することができました。あと、残り 1 回の卒論報告会を通れば、卒業することができると思っています。これまで福島南ロータリークラブ会員の皆様は私の卒論のことにご関心を持っていただきありがとうございました。また、米山奨学生となったおかげで、2 年間で多額の奨学金のご支援

をいただき、学業に集中することができました。そして、たくさんの素晴らしい体験ができました。あと残りわずかな奨学生生活ですが、みなさんとたくさんの交流をできるよう引き続き頑張っていきたいと思っております。

誕生祝い 親睦活動委員会 河野 忠 委員長



2月生まれ
横山 りつ子 会員
鈴木 光一 会員

1月生まれ
大橋 廣治 会員
紺野 仁昭 会員
林 克重 会員

地区大会表彰者 代表者 赤間 浩一 直前幹事



受賞した皆様おめでとうございます。
代表して赤間浩一直前幹事が受賞されました。

※表彰者一覧は2/1の例会
にて配布しております。

ロータリーの友の時間 ロータリー情報教育委員会 高橋 和之 会員



皆さんこんにちは！

ロータリー情報教育委員会の高橋和之でございます。今日の例会は「オープン例会」ということで、私たちの新しい仲間の予定者がお出でになるとお聞きしまして、ご入会の参考になればと、僭越ながら私のロータリー入会からの振り返りを、簡単に紹介させていただきたいと思います。

ロータリークラブへの入会は、先輩会員からのお誘いがあり、諸々の手続きを経て、入会が出来ることになっておりますので、自分の意志だけでは入会できないルールになっております。

私は、当クラブの先輩会員から、入会のご案内をいただきまして、2002年4月に入会させていただきました。59歳の時でしたから、あっという間に22年を迎えます。入会当日は、例会の始めと終わりには鐘を鳴らしたり、歌を歌ったりして、今までに経験したことがない雰囲気の例会場は、何となく落ち着かず、正直長続きするかどうか不安を感じたものでした。入会しますと、会長・幹事はじめ各委員会の諸先輩がたの、面倒見が良くて、入会当初の不安さも日ごとに薄れてきたことを思い出します。

私の仕事上の職業分類は、自動車部品製造業でありまして、もっぱらモノづくり専門でしたので、

奉仕活動などは全くの未経験者でした。ロータリークラブは、一言で云うと、“親睦と奉仕の活動で社会に貢献”する集団ですが、同志達と一緒に活動させていただきましたので、この 22 年間は私の人生に幅というか、厚みを頂いた貴重な体験であったと、振り返っています。

ロータリー活動は、会員同士の親睦から始まって、奉仕活動へと展開されてまいります。特別に苦しい奉仕活動ではなくて、委員会活動を通しての、スムーズな共同奉仕活動でありますので、結構楽しく奉仕活動に参加させていただきました。正直なところ、全てが楽しいという事ではありません。時には苦しい事にも出会いますが、この苦しさこそ、自分には足りないところで在り、チャレンジするところと認識して、同志の力を借りたものでした。私は諸々の活動の中で、仲間たちに失礼なことや、ご迷惑をかけたことも多々あったように、反省もしておりますけれども、ロータリーの「寛容の精神」で、寛大なロータリアン達の配慮のお陰で、奉仕活動が出来たものと、振り返りをしている所でございます。また更に大切と思うところは、ロータリー活動を通して、多くの「ロータリーの友」つまり友人達を得られたという事であります。ロータリーの理念で培われた人間関係は、まさしく利害関係のない親友同志となります。仕事関係だけでは成しえない人間関係は、人生の宝と言えるところでしょう。

蛇足になりますが、最近私も高齢の身になって参りまして、特に感じています事は、高齢者になってきますと、体力的や知力的な衰えが加わってなのか、世間が急激に狭く感じて参ります。この感覚は若かった頃自分には、全く想像すら出来なかった事でした。そんな時、ロータリー活動の事や、仕事の話の他に、健康に関する話題など、時には家庭菜園の自慢話など、たわいもない世間話などを、気楽におしゃべりの出来るのも、気心の知れたロータリアンの仲間ならではと、感謝と同時に安堵する事の多いこの頃でございます。私をこの、福島南ロータリークラブにお誘いいただいた先輩会員は、一昨年暮れにお亡くなりになりましたが、お陰様と感謝につきます。

以上で私の簡単な、ロータリー入会からの振り返りでした。ご入会の参考になれば幸いです。

さて話は変わりますが、今月 2 月はロータリー創立記念月となっております。1905 年 2 月 23 日、ロータリーの創始者ポール・ハリスさんが、友人 3 人とシカゴロータリークラブの開設で、最初に会合を持った日とされております。詳しくはロータリーの友今月号をご覧ください。

所で、ロータリーは今年で創立 118 年となりますが、この長寿の秘訣は一般企業と、類似性はあるのか興味があつて調べてみました。一般企業における平均寿命は、おおむね 30 年と言われている中で、創立から 100 年以上継続するのは非常に難しく、簡単なことではないといわれています。

その中でも、日本は長寿企業大国といわれておりました。創業してから 100 年を超える企業が、世界と比較しても圧倒的に多いとのこと。

ちなみに、100 年企業に共通している特徴を調べてみますと、

1. 新たなことにチャレンジし続けている企業であること。
2. 社員を大切にしている企業であること。
3. 身近な地域社会への貢献や、自然や地球への取り組みにも精力的に取り組んでいる企業である。

ということです。ロータリーの特徴と類似している様に感じましたので、ロータリー活動をモデルにして、自社生業の長寿戦略の参考になるのではないかと感じた次第でした。ロータリーの長寿について調べていく過程で、長寿のもっと奥深いところの「本質」は何だろうと、更に掘り下げて考えたときに、・・・先輩ロータリアンからは、今更と笑われるかもしれませんが・・・「寛容の精神」ではないのかと、今回の“ロータリーの友の時間”のご縁で気付いたのです。

それは、月刊誌「ロータリーの友」‘22・12 月号縦書き 15 頁に「私の一冊」に投稿されております。そうです…我が福島南ロータリークラブ大橋廣治パストガバナーの「寛容の扉を開く」、ここにありました。ポール・ハリスの申している「ロータリー＝“寛容”と、「寛容さ」が「親睦」と「奉仕」を調和させる。そして現代の DEI とつながっていく・・・と掲載されております。

これぞ、ロータリー精神の本髄で在り、この事こそ、世界に大きく羽ばたいてきた、ロータリーの発展と長寿の秘訣なのだろうと、改めて感じ入った次第であります。そして更に大切な事は、“ロータリーは人づくり“という所以こそ、この”寛容の精神“の会得にあるのだろうとの、深い認識に至りました。我が残りの人生を、“寛容の精神“の再発見を機に、自分づくりを全うしたいものだと、遅まきながら自分に言い聞かせた次第であります。

「東日本大震災と原発事故を体験して～出会いと別れ」



皆様こんにちは！ 本日は高橋会員増強委員長より、会員スピーチの機会を頂きました。震災から12年、体験者として記憶を風化させたくない思いでいます。この度、振り返りの時間を頂きましたことに感謝申し上げます。持ち時間が限られた中で自分の気持ちを精一杯述べさせていただきます。

では、私の自己紹介から始めます。私は、32歳で看護学校に入学し看護師となり病院で働きました。好奇心旺盛な性格は何事も前向きにトライし、年齢差のある学生生活は人生を2倍楽しんだ気分でした。「人間大好き人間」をモットーに、母親・学生・看護助手・主婦・妻の5役をこなす忙しさでした。病院で働くことで

仕事の厳しさ、責任感、達成感、優しさなどいろいろなことを学びました。中でも、生きたくても生きられない死を見つめたときに感情のぶつけどころのないつらさを味わい、人生には、頑張ることと同じようにあきらめが大切であることを知らされました。

平成14年(51才)からグループホームの管理者として働きました。介護の世界は「のんびり・ゆったり・その人らしく」をモットーに人生の先輩からの学びは宝物でした。

55才、自力で会社を設立、株式会社での介護事業所は富岡町で初めてことでした。「グループホームは家族だから」相手の立場で考えようと職員に言い続けました。震災と原発事故が起きたとき、その日勤務していた職員と一緒に避難しました。家族だったらどうしてほしいといい続けたことで、一緒に行動していました。

富岡町の介護事業所を紹介します。

富岡町は、半農半漁の1万6千人が生活するのどかな町でした。町の半分の人が東京電力と何らかの関係があります。その町の中心部でグループホーム、デイサービス、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所を経営し職員は45名、いつも笑い声が絶えない明るい場所でした。

「会場の皆さん！突然ですが、目を閉じてください。」

このまま自宅に帰れなかったらどうされますか？

避難の理由も告げられず、向かう先もなく、着の身着のまま 故郷を後にしました。あの日から、私たちは大切なものをたくさん失いました。しかし、多くの支援と学びがあり多くのものを得て今日があります。

明日のあなたの姿になるかもしれません。「自分だったら」の気持ちで一緒に考えてください。

「目を開けてください。私の体験談をお話しします。」

平成23年3月11日 千年に一度といわれるマグニチュード9の東日本大震災を体験しました。そして東京電力発電所の事故による被爆の危険にさらされました。

東京電力第一原子力発電所から、9キロの距離にあった事業所は避難指示に従い避難先を転々としました。地震の激しい揺れと余震が続き、物が散乱しそこにとどまることは危険でした。近くの児童館に避難する。暗闇の中、余震のたびに「おー、怖い」眠れない恐怖の夜を明かしました。次の日の早朝から、防災無線で20キロ圏外への避難指示が呼びかけられ、私たちは川内村へ向かいました。

3月13日、水素爆発があり、冷たい雨が降り、食料が無く電気のない厳しさを耐え被爆の恐怖を味わう。16日30キロ圏外への避難指示に従いました。行く当てなく利用者21名、職員24名、車11台の長い行列でした。

3月16日、福島介護事業所に身を寄せ、久しぶりの電気の明るさと温かい食事を頂きました。また、新聞社の取材を受けて、自分たちは「被災地から来た避難民」と初めて知りました。福島市と県に支援を申し込みましたが「指定の避難所じゃない」「想定外の事」「事例がない」と、断られました。行政や知人から「バラバラに避難しているので利用者がいなくなる 会社はやめた方がよい」と、助言を頂き会社をあきらめることに決めましたが、利用者が他県に2~3人ずつ預けられたことを知り、「私は、どんなことをしても利用

者と職員を守る」「災害はいつ、どこで起こるかかわからない。事例がないなら自分が事例となればよい、」と、考えを変えました。私は、仮設の富岡町役場に何度も通いました。しかし、職員は自分のバックを背負ったまま次から次と訪ねてくる住民の対応に追われ声をかけることすら躊躇する戦場のような有様でした。

しかし、4月末に厚労省から「仮設グループホーム建設の知らせ」が届きました。私は、これが事例のあることのスピード感だと確信しました。阪神淡路大震災の多くの命の尊さを重く受け止めました。

この時から、守るものがあることで強くなり、日本で初めての事例となる覚悟を決めました。此処からの毎日は、すべてをプラスに捉え楽しい毎日でした。自分が変われば、見えるものが変わることを実感した瞬間でした。

3月22日から、福島市内の民間アパートの10室を借り31人での共同生活が始まりました。生活必需品はリサイクルショップで集めました。大皿に食事を盛り、各部屋に配りました。7.5畳の広さに、3～4人で生活しました。認知症状が増悪し、毎晩添い寝をしたり、夜中に外へ出て警察官に助けを求めたり病院に入院や通院などの介護に追われ忙しさを、避難民であることを忘れる日々でした。

平成23年10月11日、大玉村の仮設グループホームに入所する。安達太良山のふもとでのどかな田舎暮らしで心が癒される。しかし、冬の厳しさは、浜通りの過ごしやすい環境と違い高齢者の体力を奪った。仮設住宅から、環境の整った施設建設を始める。

平成25年8月、福島市に震災から2年5カ月で介護事業所を新設する。

平成27年、会社の代表となり、福島で生きるために自分たちが覚えて頂くことから始めた。

私は、福島南ロータリークラブ入会

福島法人会入会

福島商工会入会

娘は、福島商工会 青年部に入会

職員を福島同友会に入会

多くのご支援のお陰で今がある。地域へ恩返しをしたい。

介護保険制度により、地域密着型のグループホームは指定を受けた市町村の住民のみ利用できる。

富岡町(双葉郡)の皆様は、全国に避難して近くにいない。

近隣の住民の役に立ちたい。

福島市からの入居許可(指定)が欲しい。自分で行動する。

しかし、相談した誰もが「制度だからどうしようもない」の一言でした。

震災を体験したことで、自分の仕事の重要性を実感する。

家族がバラバラに避難したことにより、認知症の増悪・ひきこもり・自殺者が増えた。人の命を守りたい。

認知症ケアの専門性を高め、連携をとれる仕組みづくりが必要。

福島県認知症家専門士 福島県支部を立ち上げる。

守る命があることで、自分が楽になれたし強くなれた。

ロータリー入会は、私の夢

*私は、両親の後ろ姿にあこがれていた。

*自分は人に喜ばれる仕事をしたい

*多くの人と関わり知り合いになりたい

*人の成長する姿を楽しみたい

*世界の人と関わり、誰とでも平和に仲良くありたい

只今、夢に向かいまだまだ勉強中です。

ロータリー入会から7年の今

*福島市から、グループホームへ入居許可が出る(震災から10年10カ月)

*事業継承し、娘を代表に私は会長になる

*ロータリー活動が楽しく生活の一部になる

*次期は幹事として、会員と会長の懸け橋となる

グループホーム内にある、なかよし地蔵

感謝・鎮魂・平和を願って

利用者様の手を合わせ、頭をなでる様子にホッとします。

最期になりましたが…もう一度

東日本大震災と原発事故により様々な体験をさせて頂きましたが、今、命あることに感謝し何事も決断が人生を左右した事例とさせて頂きます。

ご清聴ありがとうございました

オープン例会 招待者へのお礼挨拶

会員増強委員会 高橋 勇雄 委員長



ご招待出席の皆様、いかがだったでしょうか。ロータリーの雰囲気は少しは感じていただけたでしょうか。毎回、スピーチは、外部講師や会員スピーチで研鑽を高めています。今回は大震災、原発事故そして、起業、ロータリーと一連の経験談を鈴木洋子会員からスピーチして頂きました。初めての参加、二度目の参加でどう受け止めて戴けたでしょうか。前回のオープン例会を機に入会された方や近々入会予定の方も居ます。もっとロータリーを深く知る意味でも、是非入会をお勧めします。後日、例会の雰囲気や感想を含め、紹介者が伺いますので率直な意見をお聞かせいただければと存じます。今後の運営に活かしてまいります。経営に携わる者は、誰しも孤独です、人は、自分の居場所、抛り所を望み、必要とされる事に生きがいを求めるもの、それがロータリーであり、学びの場である事も事実です。是非、ご入会をご検討下さい、会員一同、皆様のご入会を心よりお待ちしております。



幹事報告 宍戸隆司 幹事

2/8 第24回例会はガナー補佐訪問になります。

2/15 第25回例会はゲストスピーチがあり、12:15からの食事になります。